

建築雑誌展 2010-11

The Retrospective, "Kenchiku Zasshi" 2010-11

ごあいさつ

日本で最も歴史のある建築雑誌である日本建築学会発行の『建築雑誌』は、1887年（明治20年）の創刊以来、1600号をこえて今なお継続中、現在は2年ごとに編集委員会が交替して編集を務めています。発行部数は34,000部、読者の職種は建築設計、研究・教育を中心として建築のあらゆる分野に及んでいます。

2010年から11年にかけての2年間は、歴史工学家・中谷礼仁が編集長を務め、「開かれた学会」を目標に、さまざまな専門やバックグラウンドを持つ委員が集まり、関連する諸分野との連携によって「建築」の新たな地図を提案する特集を毎回組んできました。本展は、この2年間の『建築雑誌』を振り返り、その内容一覧と共に、これらの書容設計、写真、イラスト原画、連載に登場する資料などを一同に展示します。2年間の蓄積を通して、2010-11年の委員会が提示してきたものを感じとって頂ければ幸いです。

展覧会に寄せてー編集長 中谷礼仁

日本建築学会発行『建築雑誌』の創刊は明治20年。最古かつ現役の建築雑誌である。この展覧会は2010年から11年までの編集体制による『建築雑誌』展である。編集途中、日本の国土を根底から変えるような東日本大震災も経験してしまった。24冊の『建築雑誌』は、今後それなりの資料的価値を持つことになるだろう。会場では、雑誌を読み、資料や連載のビジュアルが公開され、関連するトークセッションが行われる。無料である。気に入った号は購入できる。ぜひ ご足労いただきたい。

「建築雑誌展 2010-11」 トークセッション

12月15日（木）：「書容設計における【雑】」
羽良多平吉（書容設計家）+中谷礼仁：モデレーター
会場：建築会館ギャラリー
日時：各日 17:00 – 19:00
入場無料、予約不要

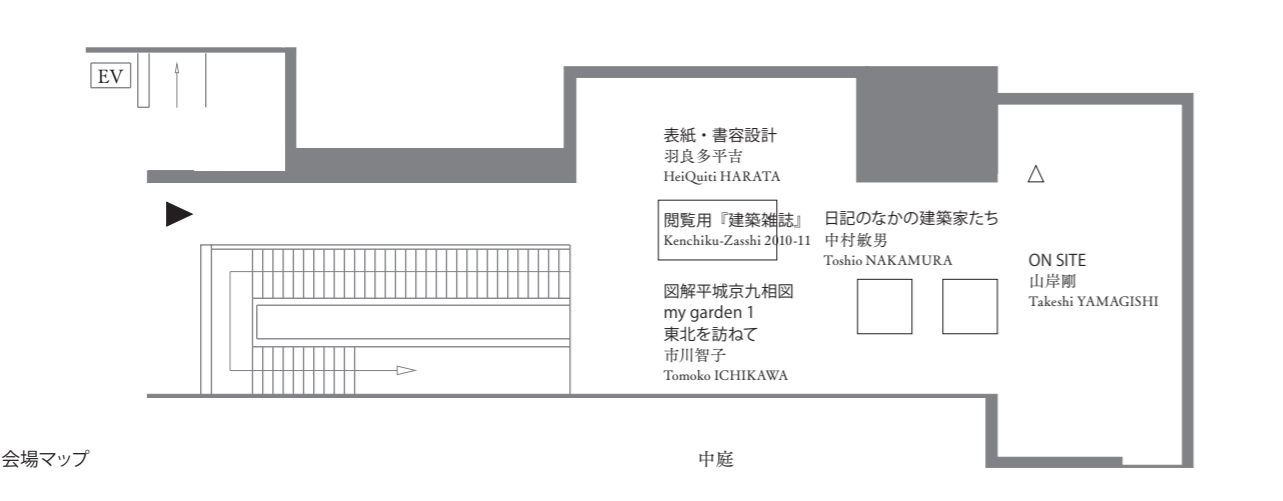
12月16日（金）：「『2010-11』から『2012-13』へ」
中谷礼仁+青井哲人（建築史家、『建築雑誌』2012-13編集委員長）+内田祥士：モデレーター

12月18日（日）：「復興の現場」
熊谷秋雄（茅葺屋根屋）+田揚裕子（建築史家）+川島秀一（民俗学者）+柴原聡子+後藤治：モデレーター

12月19日（月）：「家とは私たちにとって何か」
佐藤浩司（建築人類学者）+牧紀男+木下光：モデレーター

12月20日（火）：「都市・居住・スラム」
西沢大良（建築家）+糸長浩司+日埜直彦+林憲吾：モデレーター

12月21日（水）：「中村敏男氏に聞くー建築の時代」
中村敏男+ケン・タダシ・オーシマ（建築史家）+吉良森子+中谷礼仁+日埜直彦：モデレーター



会期：2011年12月15日〔木〕- 21日〔水〕
開館時間：10:00 - 19:00（入場無料）
主催：日本建築学会『建築雑誌』2010-11 編集委員会
会場：建築会館ギャラリー
HP：http://jabs201011.wordpress.com/

出品者プロフィール

ー表紙・書容設計 羽良多平吉

羽良多平吉は書籍や雑誌を中心とした印刷物の書容設計を手がけるエディトリアルデザイナー。中谷礼仁編集長の依頼で、『建築雑誌』の書容設計を2010年より2年間担当。表紙フォーマットは数ヶ月おきに変更され、毎号印象的な図像が表紙を飾った。題字は羽良多の手によるもので、幾何学の重力から解き放たれた、従来の建築雑誌とは一線を画すセマンティックなデザインとなっている。本展では『建築雑誌』表紙 から16冊に加えて、見返し連続ページを羽良多本人のセレクトのもと展示。

ー連載「日記のなかの建築家たち」 中村敏男

海外の建築を日本に紹介する雑誌のパイオニア、『a+u』（新建築社）の編集長を長く務めた中村敏男（編集委員会顧問）による連載。学生時代から、鹿島出版会の編集者を経て、『a+u』編集長を務める中での、中村と世界各国の建築家との交流が描かれる。世界デザイン会議前夜の日本建築界の様子、アメリカでのニューヨーク・ファイブ（並びにIAUS）とのやりとり、さらにはヨーロッパの有名・無名様々な建築家達との交流など、戦後世界建築史の証言とも言うべき内容となっている。本展示では、連載に登場した建築家から中村に贈られた一点物の作品や、貴重な資料を特別にお借りし、展示する。

ー連載「ON SITE」 山岸剛

写真家 山岸剛による連載。毎号、特集テーマとの関連を視野に入れながら、山岸が日本各地へ出向いて撮影した写真を、見開きで24回にわたり掲載した。大辻邸（設計：篠原一男）、森山邸（設計：西沢立衛）、下田の住宅（設計：鈴木了二）などの建築家の作品から、阿蘇中岳火口、越谷レイクタウンから東北の被災地風景まで、撮影される幅広い対象からは、あらゆる事物を等価に捉える「現場から=on site」の眼差しが伺える。本展では、連載の中から山岸本人のセレクトのもと計12点を展示。

ー絵巻物「図解 平城京九相図」、「東北を訪ねて」 市川智子

コルビュジェの人生をマンガとエッセイで描いた『愛と哀しみのル・コルビュジェ』（彰国社、2007年10月）で知られる、イラストレーター市川智子によるイラスト。本誌2010年12月号 特集『平城遷都1300年考』において、平城京の持続的変容の物語を9枚のイラストで表現し誌面に掲載。地形、グリッドなどの制約的条件と、それによって生み出され、引き継がれていく都市構造の持続的変容を表した。また、2011年12月号には、7月に東北地方を訪れた体験をもとに「東北を訪ねて」というイラストを描きおろし、掲載。本展ではこれら二つの号のために描かれたイラストの原画を展示する。

ー閲覧用『建築雑誌』一覧

2010-11 編集委員会が編集した計24冊の『建築雑誌』を閲覧いただけます。

出品リスト

中村敏男 出品リスト 展示平台キャプション参照

- | | | |
|--------------------------------|---------------------------------|---|
| a. SD 選書 | i. 『ザ・ニューヨーク・タイムズ』1973年11月26日 | q. 『Philip Johnson's GLASS HOUSE』YKK AP、1998年 |
| b. C. アングザンダー『人間都市』鹿島出版会、1970年 | j. 白井晟一からの手紙、1971年7月 | r. フィリップ・ジョンソンから贈られた模型 |
| c. 『a+u』創刊案内リーフレット、1970年 | k. アルフレッド・ロートの著作・翻訳・手紙 | s. ビーター・アイゼンマンのスケッチ、1992年8月26日 |
| d. 『a+u』創刊号、1971年1月号 | l. ケネス・フランプトンのメモ書き | t. 中村敏男氏の日記 |
| e. レバウス・ウッズ 展示リーフレット | m. ロバート・ヴェンチューリからの手紙、1994年5月29日 | 以下2点、壁面展示 |
| f. 『OPPOSITIONS』no.1、1973年 | n. フランク・ゲーリーからの手紙、1994年3月25日 | u. ルイス・カーンから贈られたスケッチ |
| g. 『IAUS』案内書 | o. マリオ・ボッタのスケッチ | v. ハンス・ホラインから贈られたドローイング |
| h. ジョン・ヘイダック 展示リーフレット | p. アルド・ヴァン・アイクからの案内状 | |

山岸剛 出品リスト 会場マップの△から時計回りに

- | | | |
|--------------------------------|-----------------------------|----------------------------------|
| 1. 尾形家古文書、リアスアーク美術館、2011年7月19日 | 5. 万石浦、宮城県石巻市沢田、2011年10月23日 | 9. 千葉県旭市、2011年3月16日 |
| 2. 岩手県宮古市田老青砂利、2011年5月1日 | 6. 越谷レイクタウン、2010年12月6日 | 10. 復興小学校、東京都中央区明石小学校、2010年10月7日 |
| 3. 大辻邸（設計：篠原一男）、2009年12月8日 | 7. 静岡県御殿場市、2010年11月8日 | 11. 宮城県気仙沼市唐桑町小長根、2011年5月2日 |
| 4. 尾形家、宮城県気仙沼市小々汐、2011年7月17日 | 8. 森山邸（設計：西沢立衛）、2010年4月6日 | 12. 北上川、2011年10月25日 |

建築雑誌展 2010-11

The Retrospective, "Kenchiku Zasshi" 2010-11

会期：2011年12月15日[木]-21日[水]
開館時間：10:00 - 19:00 (入場無料)
主催：日本建築学会『建築雑誌』2010-11 編集委員会
会場：建築会館ギャラリー
HP：http://jabs201011.wordpress.com/

『建築雑誌』とは

日本建築学会発行の日本で最も歴史のある建築雑誌。1887年（明治20年）の創刊以来、1600号をこえて今なお継続中。現在は2年ごとに編集委員会が交替して編集を務めている。発行部数は34,000部、読者の職種は建築設計、研究・教育を中心として建築のあらゆる分野に及んでいる。

2010-11年『建築雑誌』 編集方針

- ・学を主体とした関連領域とのアソシエーションによる編集
 - ・「建築」に関連する諸分野の新しい地図作りと人物発見
 - ・問題提起、提案型 対立軸をきちんと紹介し、読者自身の検討の場所を産み出すこと
 - ・これまでの建築型の評価と整理
 - ・「開かれた学会」のためのひとつの方策として存在すること
- これらを実現するために討論的座談を行い、かつ有名無名・ソフトハードを問わず国内外の諸地域で生まれている建築的諸課題や活動を果敢に紹介検討を行う。

2010年-2011年『建築雑誌』 編集委員会構成

委員長：中谷礼仁 Norihito Nakatani	柴原聡子 Satoko Shibahara
幹事（顧問）：中村敏男 Toshio Nakamura	清水重敦 Shigeatsu Shimizu
幹事：伊勢崎賢治 Kenji Isezaki	高口洋人 Hiroto Takaguchi
糸長浩司 Koji Itonaga	戸田 穰 Jo Toda
内田祥士 Yoshio Uchida	豊嶋太朗 Motoaki Toyoshima
後藤 治 Osamu Goto	中江 哲 Tetsu Nakae
陶器浩一 Hirokazu Toki	林 憲吾 Kengo Hayashi
トム・ヘネガン Tom Heneghan	日埜直彦 Hino Naohiko
西澤英和 Hidekazu Nishizawa	マエキタミヤコ Miyako Maekita
委員：饗庭 伸 Shin Aiba	福島加津也 Katsuya Fukushima
赤松佳珠子 Kazuko Akamatsu	真壁智治 Tomoharu Makabe
市川智子 Tomoko Ichikawa	牧 紀男 Norio Maki
伊藤俊介 Shunsuke Itoh	山岸 剛 Takeshi Yamagishi
勝矢武之 Takeyuki Katsuya	山口俊浩 Toshihiro Yamaguchi
岸本 耕 Koh Kishimoto	遊佐謙太郎 Kentaro Yusa
木下 光 Hikaru Kinoshita	(以上五十音順)
金 玖淑 Minsuk Kim	書容設計：羽良多平吉+米倉みく @EDiX
吉良森子 Moriko Kira	DTP+校閲：メディア・デザイン研究所
ジェームス・ランビアーシ James Lambiasi	翻訳協力：牧尾晴喜

2010-11『建築雑誌』 特集タイトル一覧

『建築雑誌 2010年1月号 特集 検証・三菱一號館再現』

『建築雑誌 2010年2月号 特集 建築・有象無象』

『建築雑誌 2010年3月号 特集 ナイーブアーキテクチャー』

『建築雑誌 2010年4月号 特集 〈郊外〉でくるな一等身大の都市周縁』

『建築雑誌 2010年5月号 特集 BOSAI 立国ニッポン』

『建築雑誌 2010年6月号 特集 われらの庭園』

『建築雑誌 2010年7月号 特集 建築写真小史—建築写真を拡張するために』

『建築雑誌 2010年8月号 特集 NPO Now』

『建築雑誌 2010年9月号 特集 建築年報 2010—建築学会総スクラム』

『建築雑誌 2010年10月号 特集 構造者の格律』

『建築雑誌 2010年11月号 特集 エフェメラ—短命な建築媒体を後世に』

『建築雑誌 2010年12月号 特集 平城遷都1300年考』

『建築雑誌 2011年1月号 特集 未来のスラム』

『建築雑誌 2011年2月号 特集 建築論争の所在』

『建築雑誌 2011年3月号 特集 アジアアトラス』

『建築雑誌 2011年4月号 特集 日本のデザイン × ビルド』

『建築雑誌 2011年5月号 特集 建築学会の国際化—ゼロ・サーヴェイ』

『建築雑誌 2011年6月号 特集 建築の境界』

『建築雑誌 2011年7月号 特集 Re:edit 環境学カタログ』

『建築雑誌 2011年8月号 特集 シミュレーション・デザイン』

『建築雑誌 2011年9月号 特集 建築年報 2011—木／東日本大震災』

『建築雑誌 2011年10月号 特集 検証：東日本大震災と建築学会』

『建築雑誌 2011年11月号 特集 国・人・土のデザインI—アーカイブとしての東北』

『建築雑誌 2011年12月号 特集 国・人・土のデザインII—不安定な大地とどうつながるか』